



〈自分（たち）でつくるみんなの学校 ～日本一美しい学校を目指して～〉

成美っ子

学校だより 令和5年度No.9

私の原点 ～とにかくやってみよう～

第4学年 担任 森 敬

私は小学校の教員として22年間、子供たちとの関わりの中で、挑戦の精神を大切にしてきました。この性格は、約25年前に青年海外協力隊としてパプアニューギニアに派遣され、体育教師を務めた経験が、私の人生に大きな影響を与えたからこそ生まれました。

青年海外協力隊では、日本人として新しい環境で活動することが求められました。意気揚々と、自身が思い描いていた、日本流の体育教育を実践しようとしたのですが、それ以前に、現地の制約や状況に順応すること自体が大変でした。そこで、英語ではなく、現地語のピジン語を使ってみることにしました。初めて使う言語には苦勞しましたが、生徒や地元の人々とのコミュニケーションが円滑になり、彼らとの信頼関係を築くことができました。

私は、この経験から、「教える」のではなく、「共に学ぶ」ことの重要性を初めて理解しました。国の枠組みを超えて、同じ目線で生きることが、本当の意味での交流を生むのだと気付きました。そして、パプアニューギニア流の生活様式にも挑戦し、地元の人々と共に生きる喜びを知りました。放し飼いの鶏をその場で絞めて、現地の人々と共にいただいたチキンの味は、最高に美味しく、周りの人々と手を取り合い分かち合うことで、心豊かに生きることができると実感しました。

この経験が、何にでも立ち向かい、積極的にチャレンジする姿勢を育みました。そして、その精神は、今も私の中で輝き続けています。挑戦することで、自分の好みや得意なこと、苦手なことが見えてきます。私は様々な分野に挑戦し、自分に合ったものに出会うチャンスが増えたと感じています。これは、私が教育現場で大切にしている価値観でもあります。

子供が新しいことに挑戦するときには、困難なこともあります。大人が先回りしてやめさせるのではなく、その挑戦をサポートしてあげることで、彼らは自分の強みや弱みを理解し、将来に向けての力強いステップを踏み出せるでしょう。どうか、お子さんに、様々なことに挑戦させてあげてください。少し立ち止まることもあるかもしれませんが、その中で得られる成長と学びは計り知れません。難しいこともあるかもしれませんが、保護者としてのサポートが、彼らの未来を輝かせる一助となることでしょう。私はこれからも、教育者として、子供たちに挑戦の大切さを伝え続け、彼らが自分の可能性に気付くお手伝いをしていきたいと考えています。



パプアニューギニアの精霊「トツブアン」の化身。円錐形のマスクと、こんもりした草の胴体からなり、年に一度、海からやってくる。